

広報



ごじようめ

発行所 秋田県五城目町役場 編集 秘書課 電話(018876)代 2100番
印刷所 潮 東 印刷所 電話(018876)2430番 一部 5円
郵便番号 018-17 毎月 1日・15日発行

人口と世帯

世帯数 3,958 世帯
人口 17,237 人
内訳 { 男 8,314 人
女 8,923 人

住民登録調 (52年1月末日現在)

転入・転出の場合はかならず窓口へ届出ください。

過去八年間町有史以来の事業量
任期満了にともなう町長選挙は現職のまま立候補した加賀谷氏に決まった。通算四期七代目の町長である。加賀谷町政は、出た、その大筋に狂いなく町づくりをすすめてきた。生活産業幹線道路網の整備には国道二八五号線の昇格をはじめ、中央線の改良工事、広域林道の導入、農村総合整備モデル事業などで、それを支える橋の永久橋化。そして町民センター・広域体育館学校など公共施設の整備。この八年間で町有史以来の事業量を消化している。これら馬場目川の水を中心に据えた町づくり構想の大胆な実績が、無投票当選の要因に結びついたのかも知れない。

人口流出の原因は何か

しかし、この町では自治体運営の根幹にふれる問題をかまえていない。それは人口の流出である。経済の高成長時代には他産業に流出する若者の数が出た。低成長期にある現在家族ともども町を離れる場面が目立つ。働く場所がないのか住宅地が高くて求めにくいのか。生活物資の価格が高いのか。

加賀谷氏 四度目の町政を担当

交通が不便なのか。それとも開発計画が達成されるまでの一時的な現象なのか。原因の究明が急がれるところである。ある調査では、北東北三県(青森・秋田・岩手)一九八市町村のうち、四十八・九九年に八〇%以上の市町村で人口の減少が続いており、ひとり五城目町だけの問題でないことはわかる。が、しかし、これを東北地方における社会構造的なものとして受けとめてよいという結論にならないだろう。加賀谷町長の創造的な手腕に期待。五城目にはこれらの問題点を抹消していく体制を整っている。開発公社があり、磯ノ目がある。価値観の多様性からくる意見の対立、衝突は絶えずつきまとうだろう。が、何が町民に本当の利益をもたらすか。この土俵の中で、執行部と議会は共通項目を根拠よく探し求め、飛躍するために、時には後退することもない柔軟な姿勢を保ちながら、この問題に取り組んで欲しい。

加賀谷町長の持つて生れた、強じんな精神力と勇気、そして創造的な構想力に人口流出の歯止め対策を特に期待したい。それが今まで進めてきた町づくり施策と結びついた時、間違いない町の発展が約束されるからである。



・五城目町をもっと住みよくしたい ～街頭演説する加賀谷町長

△広報サロン▽

一つの光

長町 鍋谷きよみ



これは私の学友学校法人「清水学園専門学校」の園長清水とき先生の言葉である。

短大卒業後、マスコミ時代の先端ともいうべきDJを経験してきた私にとって、戦時中からいち早く着物を打ち立て、広めてきたとき先生のこの言葉は、新鮮で、心の奥深く共鳴するものがあった。とき先生との出会いは、日本舞踊の名取になる以前のことであり、お茶やお花と共に、お稽古事に忙ただしかった頃のことである。父母の勧めによって受けた先生からの特訓は、実に厳しいもので、苦しい中にも女性として得ることが多かった。

全国から集まる和服を愛する人々の中で、とことん着物を学ぶには、こちらから食いついてゆかねば、清水流は身につかないことを知った。以来、朝十時から夜九時までの毎日の授業は体あたりの連続であった。マネキン人形を使つての特訓では、ハードスケジュールのために重心を失なつて人形共々倒れてしまひ、マネキンの足を折つてしまった事もあった。そんな時、担当の先生は、いつもそっとかばつてくれた。それが却つて私の拍車となり無我夢中で講師の資格を取得したのだ。

その後、園長先生の個人的な勧めで幸せにも着付け教授への道を歩き始めたのだ。月一度上京しての授業には、今までの勉強には見出し得なかつた日本の文化の歴史や伝統芸術との触れあいを感じることもあった。突っ込む程に、深く広がりを持つていく着物学とその文化に、限らない愛を注ぎ込む園長先生に出会えた事は私の一生に一つの光を投げかけたようだった。

第十回 青年議会

若ものの町づくりをめざし

宅地造成など要望

去る一月三十日午前九時から役場第一会議室において、第十回青年議会が行われた。この青年議会は若い声を町政に反映させようと昭和四十二年からはじまったものである。

青年のもっている透明な問題意識が地域社会を変革する。十回目を迎える中でその歩んだ道は町づくりの一翼を担う集団としてふさわしいものであった。いま青年の目は秋田湾地区大規模工業開発構想の中で町のあるべき姿を企業誘致や宅地造成などに向けられている。

佐藤悦郎会長は冒頭のあいさつで「先輩の歩んできた歴史と伝統をふまえ、社会との関連を明らかにして行くことが青年の意識を変革させる。青年一人一人が地方自治をよく理解し、積極的な発言と日頃の学習成果を充分に発揮し、今後の町づくりに参加してほしい。」以下議案概要を述べてみた。

混乱が生じる。

開会にさきだち佐々木議長から世界は厳しい不景気の時代に入った、若い力で町の将来を展望するように、また畑沢教育委員長は、話しにまどわされず自分の目と足で事実をよく見きわめる目を養って町の現実をしかり身につけてほしい、と励ましのあいさつがあった。

引き続き加賀谷町長からつぎのような施政説明があった。

施政説明

十回目を迎えた青年議会も年々さかんに進んで誠に心強い限りである。ことは皆さんが内外に活躍され五域目の意気さかんところを見て町の将来に希望を持って見守ることができた。

若いということはつねに新しいものを追求する一つの特徴を持っている。また年配者は古さを持つこれら新旧をうまく調整しないと



行い、皆さんの希望を満すべくその集約点として広域体育館、町民センターをつくった。町の仕事は

計画的に系統的に行う必要がある。

つまり、施設をつくって町の経費をなるべく持ち出さないで、経済的に効果のある仕事をするのである。

馬場目川を町づくりの拠点に

馬場目川をどういにかすか周辺との関連で町づくりを進めたい。秋田市と能代の中間に位置し、山、川、沢部があり、これらを考えながら町づくりをする。

馬場目川の改修を促進し、広域体育館、町民センターを基点とす

一般質問

石川 交三(杉沢)

質：農家の嫁不足について

この町を愛し、発展させるといふ立場から三つの問題を提起し、当局からおうかがいたい。農村における長男、長女は結婚したくともできない、農村の若ものはほとんど都会に出て行く。残ったのが家の後継ぎということである。全国的に農家の嫁になり手がいない悲しむべき現象である。

農業人口が年々減っている。これら農業を背負って立つ新規学卒者は、三五年十二万七千人、四九年一万四千人に急減している。

多くの青年が農業の将来に不安をおぼえている。この町も例外でない。いま当局は農業発展にどのような望を持っているか。

る省館運動公園の整備に入る。総事業費六億円で五年計画である。また西野台に改築中の五高といその目地区の間に河岸緑化地帯を設ける。そして護岸道路を築造し、公園と一体化した機能にする。

観光開発では町民が安い費用で活用できる施設をつくるため憩地スキー場、運動公園、森山公園を整備したい。

人口三万人の都市づくり

町の人口は横ばいがつづいていく。三万人の都市づくりに移行すべく誘致企業、宅地造成を行い、人口の増加を図りたい。

土に生きる喜びを

町長：実際に若い男女は互いに意識するものだ。

幸せはどういう職業であろうと皆同じである。心がまえとしては自分なりの価値や幸せは何か、自分の一生の目標は何かを探索してひたむきに努力すべきである。そのうちに体で理解でき、女性の共感を得られる。いろいろ若い人たちの実情を聞いて対処する敗残者のなせセンチメンタルな物の考え方をすてて敢然と立ち向かってほしい。

都会でない田舎のよさを考えてほしい。自分で土を耕し、種を播き、収穫する喜びは都会にはない。本当に人間としての価値があるという意識が生まれることによつて若い女性が沢山慕ってくる。そういう者に共感をおぼえる人とおおいに家庭を持ってほしい、きめ細く相談に乗ったり、お世話をした

質：町民サイドの町行政のあり方について

移動町民室は大へん評判がよく成果もあがっているようですが、例えばこれに参加できない人、役



神明社裏に

町営住宅二十三戸建設

場に来れない人のために各町内部落ごとに投書箱やポストなど設置できないものか。役場の仕事が遅いとか手続きが面倒だというイメージがある。住民の声をすぐ解決できるような「すぐやる課」とか「相談受付所」を設置して専門の電話を置き、誰れもが気軽に利用できないものか。

町長：全世帯に無料相談のハガキを配布したことがある。毎年何回か移動町民室をやっており、こともすでに十三回行なった。各町内部落をまわって住民の声を直接お聞きしたい。できれば足で一日ぐらいつつの部落をよく見たい。そして部落の状況を細かく掌握したい。

渡辺 義樹(五連青)

質：五域目分館の確保と五域目公民館について

五域目町青年会は、分館がなく町民センターを利用するにも使用料の関係で、単青会長宅やわざわざ馬川分館まで行って集集するなど定まった集集場所がないのが現状である。

旧町内の分館長はおり、そのための予算、事業を組んでいながら建物がないということは大へん矛盾しているように思われる。例えば分館事業の集集などには建物がないため分館長宅を会場にあてているのが現状だ。公的事業

質：男子型企業の誘致について

男子型企業誘致は数年前からあったがまだ実現していないのは何故か。また町は県都のベッドタウンとして大いに発展する余地がある。地元の人材に対しては出稼ぎ解消の意味から景気浮揚策として注目すべき点がある。大規模な住宅建設はできないものか。

町長：エート電機も誘致企業の一つである。まだ十分に余剰労働力を吸収させるだけのものはない、大へん残念である。

ことしから町営住宅をつくる。五十一年度から神明社裏に二十三戸分の住宅をつくる計画である。開発公社で五十九戸分の宅地分譲を行っている。広ヶ野、神明社裏、大川旧道、いその目地区などがそれで一生懸命努力したい。



とっている現在、地元に残りたいと希望する住民の強い要望が出ています。その中で、分譲地不足の問題がかかわれているのではないかと昭和四十八年度に大川下樋口地区に二十四区画の宅地分譲したことは大変好評であった。

当然アクト開発に対する期待は大きい。そこで町では、公園、土

人口の流出と密着した多くの問題を含んでいる。地域住民の間で郷土に対する強い愛着心が高ま

町長：いままで中央公民館に併設してきた。いまそのつもりである。町民センターに分館を一所に設けている。公民館の事務所は広域体育館に設けている。事務所の中にはスチール製の机があり、体育指導員、婦人会、青年会などの机を配置し関係者の利用に供している。センターロビーの活用も含めて分館についても具体的な提案をお待ちしたい。

に取り組んで行くうえで個人に負担をかけるのは遺憾だ。これは五城目公民館にも言えることではない。本町の公民館はなくなったのか、なくしたのか、今の運営方法では私達が利用するにいろいろと不便を感じ不安でならない。

地区画整理、住宅、工業団地などの計画があるようだがどうか。また分譲地にふさわしい場所はないものか。いま、町の人口は減りつつある。それは家を建てたくとも土地がないため、止むなく天王町や八郎湯町など分譲地を盛んにやっている地域に居住する原因である。

宅地造成は積極的に推進

町長：市街地に相当規模の建物は理想だが、駐車場との関連もある。今後何らかの機会にそういうような実現を期待し、遠い将来の課題として残しておきたい。今後よい土地を物色しながらやって行きたい。

小玉 哲司(五城目)

質：広域体育館及び町民センターの管理運営について住民に無料開放できないものか。

ふるさとの山、森山を背景に広域体育館、町民センターができてから二年をすぎた。各々いろいろな方面で活用されている。以前の公民館はうす暗い、狭い部屋で気



楽に話しができた親しみのある建物ではないなつかしい。ここで公共的な建物を三つの施設に分類すると一つとして文化施設で青年の家、老人の家がある。

二つは総合的な課外施設として公民館などがある。

三つは専門的なものとして児童館、図書館などがある。町民センター、広域体育館は総合社会施設として公民館と同じ機能をもった建物である。また公民館の活動機能を分類すれば、第一に部落的なもの、第二に市町村的なものとなるのではないか。この面から広域体育館、町民センターは第二に入

町長：町民センター、広域体育館各々、一長一短があり、何を一つくても完全無欠なものはない。無料がよいか有料がよいか。東京都の場合、無料から有料に切り替えた。それはもちろん財政的なものもあると思うが、無料の場合管理運営の面でどうしても予算がないからがまんしないというところで全然使わない人を使う人との不公平が生ずる意味からやはり常識的にみて有料に代ったと思う。

高い安いは使って見て

質：冠婚葬祭の簡素化について

社会の進歩に伴い生活が大きく変わった。急激な都市化が進み生活環境の変化でいろいろ新しい問題が出てくる。

とくに最近の冠婚葬祭を見てみると他事に流れてきている傾向がある。どこの町でも過去いく度となく簡素化を叫び続けてきたが、ほとんど見るべき成果がなく今日に至っている。

ことしこそ、提案だけに終ることなく町で計画させるべきだ。披露宴については単に会費制にしても内容が今まで通りでは長続きしないのが実情である。

そこで内容については各青年団体が主体となり、婦人会、若妻会などに呼びかけて十分討議のうえ各部署、職場へ町当局と住民が三位一体となって積極的に行なっていく。

根気よく簡素化運動を

町長：おっしゃる通りだ。公民館でもいろいろ努力し、全世帯にチラシを配るなど啓蒙宣伝している。

いまの質問の通り、祝儀の相談に行けば引きものの話ばかりで式の内容に余りふれない。むしろ逆にすべきだ。

婚約者にふさわしい創意工夫をこらして、それに時間と金を使うのでなく、料理と引きものだけに使っている。大いに反省しなければならぬ。

これはおそらく何世代にもわたって簡素化運動が必要であろう社会教育運動として根気よく



第10回青年議会

あいさつをする佐藤会長

決議

私たちは、今日一日青年議会において町政に関するさまざまな問題について学習と要望をした。その中で、本町がかかっている問題も多岐にわたっていることを学んだ。とくに、私たち青年の声を行政に反映させ新しい住民参加のあり方をさぐることの重要さとあわせて、町づくりに果す青年の役割りと重要さを痛感した。

さらに地域変革者となるための人間形成の場である青年のための学習施設づくりの必要性もあらたに提起された。

第十回青年議会にあたり、次のことを決議する。

- ① 町民の英知と汗の結晶を注ぎこんで建設された「町民センター」、「広域体育館」の活用については町民の学習や健康増進のために気がるに利用できる民主的な管理運営体制にする。
- ② 人口増を促進するため「台地」などを宅地化し町民に安い分譲地を提供すること。
- ③ 農業振興を図るため圃場整備事業の推進と農地の宅地化を抑制すること。
- ④ 伝統産業の育成を図るため、製品の市場性及び宣伝活動に努め後継者の育成にも援助すること。
- ⑤ 森山の自然保護は、町民一体となって運動に取り組むこと。

以上決議する。

昭和五十二年二月六日

第十回五城目町青年議会

久保部落移動町民室

町づくり強い決意

久保・坊村間の通学路など迫る

去る二月三日午後七時から久保部落公民館において、部落移動町民室が行われた。全戸数四十六戸のうちから四十五名が参加し部落の生活道路や通学路、基盤整備事業など多岐にわたって活発な要望が出された。

今回で十三回目を迎えた移動町民室は各地区がかかえている様々な問題をより鮮明な形で現わし、町づくりの貴重な参考資料となっている。

冒頭一関立見部落長のあいさつがあり、「昨年は公民館の建設、頭首工、ミイ道の建設あるいは今冬の除雪対策など町当局のきめ細かい施策に深く感謝したい。住みよい、暮しよい町づくりのため町当局とヒザをまじえて話す機会をもった。部落の発展、町づくりのため要望や意見を出してほしい」と述べた。主な概要はつぎの通りである。

町長あいさつ

皆さんと話しあうのも今回で十三回目を迎えた。

月日の立つのは早いもので通算十二年を終わろうとしている。心から感謝したい。

町づくりは計画的に

昭和六十年の町のあるべき姿を想定して、昭和四十五年に長期総合開発計画構想を策定した。

そして公共施設を円滑に進めるため公共用地を先行取得すべく開発公社を創設した。これは県内町村では二番目であった。

町づくりの根幹は水にある。広域体育館、町民センターを中心とする雀館運動公園は馬場目川の水を前面に出している。その目地区、五高を狭んだ護岸道路など有機的なものをつくる。

中核林業で山の管理は簡単

ことしから中核林業の指定を受け

産業振興に対応する体制づくり

こうした住民の生活環境を整備しながら比重を産業振興に移したい。企業の誘致や地場産業の育成など長期的な視点に立つて住民福祉の向上を図りたい。

要望事項

久保橋に照明灯をつけてほしい

町：橋の美観という面からも設置したい。

五十二年度における農村総合整備モデル事業の見直しについて

部モデル事業でやりたい。圃場整備も二・三年のうちに実施したい計画である。モデル事業に関連した道路や圃場に関連した道路は各々の事業で行いたい。

用地について館越、久保橋までの間は地域外のため買取価格などについて関係者と話しあいたい。

築造は上位路線、県道から実施する建て前であり県の方とよく接渉してみたい。

久保、坊村間の道路が三年後に完成予定だが通学路として町道に昇格してほしい。

町：町道編入も配慮してよいのではない。

米の生産調整下で余り米が出た町当局の努力で消化できたことに感謝したい。昨年度の限度数量について割当て方式が違うようだがことしも同じ方法を取るのか。

町：昨年度と同様予備予約から反別を適確に把握し、これに地域の反収を掛けて生産量をはじき農家の保有米を取り、残ったものを出荷可能数量として割当てる方式を取る。

農外収入に依存する割合が大きくなった。農家経済を安定させるため町で何か指導方針はないのか。

町：農機具貧乏の現状からして集落農機化事業を積極的に推進し稲単作から何かプラス作物をつくるようにしたい。

米価値上げに町も積極的に運動してほしい。

町：農業団体、行政、議会と一体になって運動している。

米飯給食について各学校にアンケート調査したら児童の九十五％が賛成であった。米の消費拡大から早く取入れてもらいたい。

町：米飯給食は消費拡大というものでなく給食に対する魅力、しつけという指導面を基本として考える。

大川小は新学期から、他は検討したい。

都市計画税について用途地域の変更に伴うその還元措置はどうなるのか。

町：都市計画事業には街路事業二千五百三十九万七千円(税の充当八百四十二万八千円)都市下水路事業、一千三百六十万円(うち税の充当七百九十九万二千円)である。これに対し、都市計画税収は五十年間で七百六十万五千円しかない。大部分を国、県からの補助で充当している状況である。

税制について

国保税の算出方法が町部より農村部の方が高い感じが具体的に教えてほしい。

町：四月一日現在で税率を決定、五十二年度は未決定である。

町部と農村部の国保税の格差はない。五十一年度の税率を見ると所得割五〇％(按分〇・四％)、資産割一〇％、均等割二五％、平等割一〇％となる。税額は被保険者均等割(個人)四、七〇〇円、世帯平等割(世帯)八、二〇〇円近隣町村より

り安い。(井川町、五千六百元一万百円、八郎潟、五千四百円九千三百円)

馬場目川に漁道をつくってほしい。

町：漁業組合に助成しながらアユ、コイ、ヤマメ、ニジマスなど毎年三万五千尾放流している。戸村堰、船越漁道などについて県に陳情し多少時間がかかるが何とか解決したい。

旧馬川小学校跡に長期計画としてプールを考えてもらえないか

町：運動公園の整備にプールを設置する構想がありよく検討したい。

町：町営で三カ所あり、中には車庫代わりに使っている人もあり管理方法については鋭意検討中である。拡張の予定はない。

町長のまとめ

大へん参考になった。優秀な指導者もおり、人情味豊かで自然の汚れないものも残っている。町の中でもっとも希望のもてる地域でないかと思う。一つの事業として集落農機化でもいろいろ制約があるが、隣近所の模倣ではうまうま行かない、各個人が独自性のある状況に左右されない一本しんの通ったことをやってほしい。限られた土地の中で価値のある高価なものを作ることが大切である。

町の将来について

説明する町長



町：国の財政緊縮で事業が四年から七年に延びた。道路が必要だという事だが四十九年度に要望があった既存の道路について全

どうする湖東部農業

第四回湖東部農業問題研究会は、一月十六日町民センターを会場に開かれた。この集會には、主催した湖東部青年農業者會議の會員のほか、本町の中核的な農家など三十五名が参加、湖東部農業の現状とその振興策について真剣な討議がなされた。この集會は、農業経営について問題を提起し研究討議を重ね、これを行政に反映させようとして開かれたものであるが、日頃の経験から出た提言であ

高性寺御詠歌講中 社協に三万円寄附

さる一月二十八日、高性寺御詠

歌講中(代表八木下照全)から、社会福祉協議会に三万円が寄附され、関係者から感謝されている。これはこの講中のみなさんが御詠歌の寒修業のため、夜六時から八時まで町部の家々を巡った際あげられた喜捨である。



寒修業に発つ満中のみなさん

るだけに、行政側から出席した加賀谷五城目町長、高橋農務課長、珍田昭和普及所長などもこれを積極的に受け止め、対応していく姿勢を示した。提起された主な問題はつぎの通りである。

・湖東部農業地帯とは言え、他産業に就労する機会に恵まれているため、農業が投げやりになっている面がある。

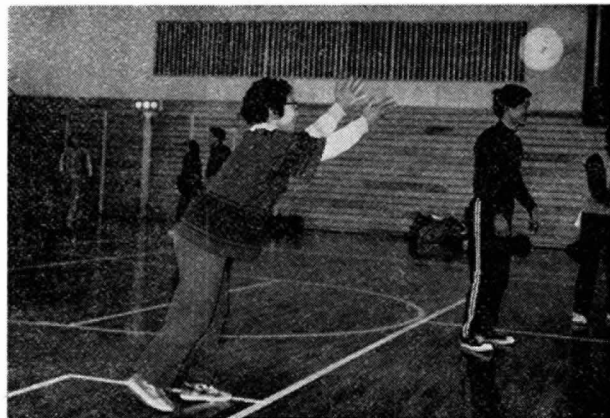
など問題もあるので、相談に乗ってほしい。大湯村の野菜生産は、周辺の野菜栽培に壊滅的な影響を与えかねない。流通面を含めた対策が必要であらう。

全町室内球技大会

森山A(家庭バレー)優勝 農協(バスケット)

去る二月六日午前九時半から広域体育館に於いて昭和五十一年度全町室内球技大会が参加選手五百名によって盛大に行われた。

種目は家庭バレーボール、九人制バレー、バスケットボールの三つに分れ、まず家庭バレーでは森山Aチームが初優勝。九人制バレーでは役場チームが接戦のうえク



熱戦をくり広げる家庭バレー

森山A 2-0 野田B 石崎 2-0 西野 下樋口 0-2 館越B エイト電機 棄権 矢場崎 小倉 棄権 内川B 野田A 2-1 四ツ屋

内川A 2-0 婦人クラブ 二回戦 石崎 棄権 平ノ下 エイト電機 0-2 西友会 小倉 棄権 森山 内川A 2-0 落合 準々決勝 森山A 2-1 石崎 西友会 1-2 館越B 野田A 2-0 小倉 館越A 2-1 内川A 準決勝 準決勝 森山A 2 151512 121513 1 野田A 1 館越B 151215 121513

決勝 農協 21-19 役場 一位 農協、二位 役場 三位 土旺会、湖東総合病院

第二回 全町職場対抗室内テニス大会 営林署チーム 二年連続優勝

さる二月十三日広域体育館で第二回全町職場対抗による室内テニス選手権大会が四チームが参加して開かれ、元国体選手の石原夫妻をはじめ、安達、久杉選手らの華麗な試合巧者をそろえた営林署チームが二連勝した。

この結果 一位営林署三勝〇敗 二位商店会一勝二敗(ポイント勝) 三位 庭球協会 一勝二敗 五高職員 一勝二敗 三市町村対抗 一位 五城目町 二位 八郎潟町 三位 男鹿市

おしらせ

お気軽に
ご相談を...!

匿名でも結構です。

住民税申告のお知らせ

給与所得者の方

給与支払報告書を提出された人でも、それ以外に所得のあった人や、所得控除額を変更される人は申告していただきたい。

年金受給者の方

年金受給者の方で、再就職により収入のある方や、それ以外の収入のあった場合、または扶

農業所得者の方

※災害減算の方法が変更しました昭和五十一年分の稲作冷害による災害減算は、今年度に限り実際の減収量(標準で見ている収量のより減収した額)を農協の証明をもとにして計算することに

養控除や各種の所得控除のある人は申告いただきたい。

申告に持参するもの

・国民年金保険料領収書
・国民健康保険税の領収書
・国民年金保険料の支払を証明するもの
・生命保険料の領収書
・医療費の領収書
・その他所得控除に必要なもの
※申告相談の不明な点は役場税務課まで。

なった。
※共済組合の所得減算証明は今年度は必要ない。
※災害減算は農協の証明で行なう

還付を受けられる方

出稼収入や、各種給与等で、所得税の源泉徴収を受けた人でも申告により所得税が還付されること

申告に持参するもの

雪おろしの季節です

電線にご注意

ことしも雪おろしの季節がやってきた。屋根に登ったとき、まず近くに電線の有無をたしかめたいもの。「この距離なら大丈夫」と

また保険金や配当金として支払いまでの間に預かっている資金は八兆円、これは学校、住宅、道路の建設など皆さんのくらしに直接役立っている。
詳しくは郵便局まで

明るいくらしの設計

簡易保険新加入運動
一月一日～三月三十一日まで

簡易保険は、皆さんのくらしになじみの深いものとなった。いろいろな病気や事故、お子さまの教育、老後の生活に対する準備資金などがそれである。

その結果、契約件数は約五千万件保障金額三十兆円に達する成長を遂げている。

豪雪時の火災予防

連日の寒波で昭和四十一年来の豪雪に見舞われている。この寒波はまだ続くようだ。
雪害は台風や地震のようには一瞬のうちに起るものではないが、ジワジワと私達の生活をおびやかす。

とくに火災の際には積雪により避難口が閉ざれ逃げ場を失い尊い人命を奪う惨事となる。

各家庭においては次の事項に留意され火災予防には万全を期したいものです。

●避難口、通路は必ず二カ所以上確保すること。

●屋根から滑り落ちた雪により煙突の破損、またプロパンガスのホースが切断されていないかよく点検してから使用する。

●石油ストーブなどの給油は必ず火を消してから行う。

●風呂釜及び煙突の掃除は定期的に行う。

●石油、ガス、電気などの暖房器具を使用中はよく注意の目を離さない。

●もし事故が発生したら小さいうちにまず一一九番へ通報する。

救急車の利用について

町では昭和四十七年八月十五日から救急業務を開始している。救急依頼業務は年々増加の一途をたどり開始以来の出動件数は七九一件で五十年と比較すると件数で約七十八件約四十八%の増加である。

善意銀行預託者

十一月十九日 高崎 館岡 和輝
五万円 (亡父五郎殿の香典返し)
十一月二十二日 下山内 大石喜一郎
一万円 (亡父武一郎殿の香典返し)
十一月二十四日 新畑町 貝田 金一
三万円 (亡父定吉殿の香典返し)
十二月二十七日 上樋口 猿田 正一
二万円 (亡父日出男殿の香典返し)
一月五日 今町 清水 清孝
三万円 (亡父清一殿の香典返し)
一月十二日 匿名
二万円